包括的な学校改善の視点：教育課程・学習指導

ＩＣＴを活用した対話を通して「自己有用感の醸成」を図り、「学びに向かう意欲を高める授業づくり」を推進する学校モデル

中核校	恵庭市立恵み野中学校	指定校	恵庭市立恵み野小学校、恵庭市立恵み野旭小学校

■　構築した学校モデルの具体

○　「対話」を重視し、ＩＣＴを有効活用した授業改革の推進

・「対話」により、全ての児童生徒が自らの考えと他者の考えの価値交換を行い、自分の考えを広げたり深めたりする授業づくりを推進する。

・１人１台端末を活用して自らの考えをまとめ、表現し、他者との考えの対話を通して、自己調整を図りながら主体的に問題解決を解決する授業スタイルを共有する。

【１人１台端末を活用した授業の様子】

○　１人１台端末の日常的な活用

・　ＩＣＴを活用した学習に思考ツールを取り入れることにより、児童生徒が自らの考えをまとめ、表現する力を育成するとともに、１人１台端末を手段として学習や日常生活に活用できるよう、学習活動の充実を図る。

・１人１台端末の日常的な持ち帰りを実施し、AIドリル等を活用した家庭学習の習慣化を図る。

○　１人１台端末の利用に関するルールの構築

・中核校及び指定校で、ＩＣＴ活用の状況を把握し、結果を基に活用に関するルールを策定する。

・教材・教具や学習ツールの一つとしてＩＣＴを積極的に活用することを推奨する。

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・地域協議会や小中連携会議等において、指定校と中核校の実践交流を行い、成果と課題を共有し、各校の取組を改善した。

・指定校と中核校で「対話」「協働」「ＩＣＴ」を共通のキーワードとして設定し、校内研究の取組を促進した。

・夏季休業中に、専科教員と指定校・中核校の教頭による座談会を開催し、取組の成果や課題、改善に向けた方策を共有した。

	理科の勉強は好きだ。				理科の授業の内容はよく分かる			
	R6.10月		R7.1月		R6.10月		R7.1月	
1. あてはまる	38.8%	71.5%	41.7%	74.2%	50.9%	87.9%	49.1%	87.8%
2. どちらかといえば、あてはまる	32.7%		32.5%		37.0%		38.7%	
3. どちらかといえば、あてはまらない	19.4%	27.9%	14.1%	25.8%	8.5%	11.5%	8.6%	12.3%
4. あてはまらない	8.5%		11.7%		3.0%		3.7%	

【理科の授業に関する児童アンケート】

〔専科教員の取組〕

・児童に対する説明や指示を明確にし、児童が思考する時間や振り返りの時間を確保するなど、資質・能力の育成に向け、学習過程を工夫した。

・単元の導入時にアンケートを実施し、児童の実態を把握した上で、ＩＣＴを有効活用し、グループで実験の様子を記録したり、他のグループの実験結果を参照したりするなど、手立てを工夫した。

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・加配事務職員が年間複数回「学校力向上だより」を発行し、中核校や指定校の授業実践や事務職員の取組を情報発信し、共有することで、職員の意識改革が進んだ。

・市内小中連携合同会議や市内教職員研修「サマーセミナー」等において、校長や研究担当教員を中心に、本事業で構築した学校モデルや取組の成果について、中核校や指定校以外の学校にも広く発信し、対話とＩＣＴ活用を重視した実践の普及に努めた。

【加配事務職員による学校力向上だよりの作成】